

ネパール地震緊急調査報告会を開催しました。(2015/10/10)

テーマ：ネパール地震緊急調査報告

場所：東北大学災害科学国際研究所 1 階セミナー室

2015 年 10 月 10 日(土)、東北大学災害科学国際研究所・東北大学片平まつり合同企画として 2015 年 4 月 25 日に発生したネパールでの巨大地震・被災に関する災害研調査団の緊急調査報告会を開催しました。同日の地震でネパールでは全人口の 1 / 3、約 800 万人が影響を受け、50 万戸にも及ぶ家々が倒壊しました。東北大学災害科学国際研究所は今年 5 月に同地震の概要、各学会等の活動についてのセミナー報告会を開催しました。今回は当研究所に所属する教員が 7 月に第 1 団、9 月に第 2 団として現地を直接訪問し調査した結果について報告しました。

今村文彦所長の挨拶に引き続いて、江川新一教授（災害医療国際協力学分野）が現地調査概要について、ジェレミー・ブリッカー准教授（国際災害リスク研究分野）がハザードとインフラ、特に上下水道の整備状況と被災状況について、ルーベル・ダス助教（被災地支援研究分野）がロジスティクス、特にネパール国内外の災害時物流について、富田博秋教授（災害精神医学分野）がメンタルヘルス、特にネパールの文化・宗教背景と同国精神医学の現状について、佐々木宏之助教（災害医療国際協力学分野）が人々の暮らしと健康について、特に政治・経済背景から見た医療の問題点について発表しました。また、現地からの現況報告として、JICA 在ネパール事務所と災害研をテレビ回線で結び、JICA 永見光三様よりネパール地震に対する現在までの JICA の取り組みと今後の見通しについて、現況とあわせご報告頂きました。

地震が発生し約半年が経過したネパールですが、同国の歴史・文化・宗教・政治・経済など様々な背景から、復旧・復興・発展の妨げとなるいくつもの問題に直面していることが明らかになりました。ネパールの人々が望むニーズに東北大学災害科学国際研究所がどのようにマッチしているか、国際研究所としてその真価が問われていると感じました。

同日の報告会には一般参加者も含め約 30 名が参加し活発な質疑応答が行われました。



（写真：左上から今村文彦所長、江川新一教授、ブリッカー・ジェレミー准教授、ルーベル・ダス助教、富田博秋教授、JICA 永見光三様）

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）